

(一般質問)

齊藤伸 ー 1 美山多目的集会施設について

(1) 施設の利用団体や人数等、利用状況を伺います。

(2) 今後の施設の利用方針を伺います。

2 地球温暖化防止の取り組みについて

1997年12月に採択された京都議定書での、2008年から2012年までに日本に課せられた温室効果ガス排出量6%削減の第一約束期間が始まりました。

国、県は官民挙げての取り組みを行っておりますが、糸魚川市における温暖化防止対策について以下の項目にて伺います。

(1) 地球温暖化に対して、市はどのように取り組んできたか、また効果は。

(2) 「チームマイナス6%」の推進や、市民及び市内業者を含めた糸魚川市全体の取り組みについての考えは。

(3) 児童、生徒への地球温暖化防止に対する環境教育の取り組みは。

笠原幸江 1 老朽化している公営住宅環境整備について

市内における公営住宅に誰もが安心して地域で暮らしたいと願うのが当然のことと思います。

その住宅が老朽化し、居住者に不便をかけている現状は、管理している行政の安全対策としての責任が問われることとなります。

特に老朽化している住宅の建て替えは急務と考えますが今後の計画と現状について市長に伺います。

(1) 西浜住宅、横町住宅、外波住宅を今後どのように対応されますか。

(2) 高齢化が進んでいるが、ユニバーサルデザインとしての住宅をどのように考えていますか。

(3) 生活指導や健康指導を含めた管理体制が取れないかその方策について伺います。

2 人口減少「少子化」と職場環境のかかわりについて

当市のみならず全国規模で大きな問題となっている人口減少は、社会形成の点からみても危機的状況です。

総合計画の施策の中で人口減少に歯止めをかけるために定住を促進することが重要であると謳われています。

市長は、8年後の人口推計(4万3,000人)を1,000人増やすことを目標としてすでに庁内で取り組むべく鋭意努力されています。

当市では、職場での環境がどのようになっているか実態を把握する必要があると考えますが、市長に伺います。

(1) 地元で働く雇用の実施「産前・産後・育児」休暇制度などについて

(2) 国・県が推進しているハッピーパートナー事業の現状について

平野久樹 1 信越化学鉱山跡地広場の運用と管理方法について

北陸新幹線工事の廃土利用で整備された信越化学鉱山跡地広場について、今後の運用と管理方法等について伺います。

- (1) 維持管理は歌地区の住民にまかせるそうですが、行政を交えて具体的な管理方法の打ち合わせは実施したか。
- (2) 名称が広場となっているが、利用者は市民ばかりでなく市外からの観光客も想定しているのか。
- (3) 現地には電気・水・トイレといった施設がなく、利用者や施設整備の作業者はどのようにして対応するのか。
- (4) 草木の植え替えに要する費用負担や維持管理にかかる経費は糸魚川市が予算化するのか。
- (5) 現地までの案内板はどの程度設置するのか。
- (6) アクセス道路の途中で西側（親不知海岸・北陸道・JR北陸線等が一望）に面して展望台を設置する考えはないか。

2 市職員の休憩時間廃止に伴い増加した実働時間の効果について

糸魚川市においても昨年4月から市職員の休憩時間が午前・午後それぞれ15分ずつ廃止されました。ただし、午後の休憩時間は自席での休憩ということで、仕事を継続していた方もおられたことから、実働時間については実質15分増えたと考え、庁内において時間＝コスト(税金)の意識をどのように高めているかについて伺います。

- (1) 実働時間が増えたことに対する職員の認識は。
- (2) 休憩時間の廃止に当たり、どのような指示が出され、効果の確認は行っているか。
- (3) 平成18年度に比べ時間外労働はどのように推移しているか。
- (4) 職員の定員適正化計画に対し、プラスに作用すると思うが、どのような認識か。

3 糸魚川市バス運行事業の一体的運営について

糸魚川市バス運行事業の一体的運営については、今年10月のダイヤ改正より実施するとのことですが、現時点で検討されている内容を伺いたい。

- (1) 糸魚川市高齢者福祉バス及びタクシー利用料金助成事業を含め、路線バス・コミュニティーバス等の具体的な運営方法は。
- (2) 地元バス会社との協議は行っているか。
- (3) 地域情報化調査推進特別委員会へ提出された資料の中で、行政サービスの生活基盤の項目にデマンドバスとあるが、具体的にはどのように展開を検討しているのか。

甲村 聰 1 農業振興策の取り組みについて

- (1) 品目横断的経営安定対策の見直しに対する評価と今後の展開について伺

います。

(2) 農地・水・環境保全向上対策の見直しに対する評価と今後の展開について伺います。

(3) 農業従事者の高齢化に対する支援策について伺います。

(4) 地産地消の振興策について伺います。

(5) 飼料・灯油価格の高騰に対する、畜産・農業生産者への支援策について伺います。

2 産業の育成と振興策について

(1) 地場産業の育成と既存企業の振興を図る具体策について伺います。

(2) 中心市街地の街づくりをどのように展開されるか見解を伺います。

(3) 企業誘致の現況と課題について伺います。

(4) 雇用情勢の現況と課題について伺います。

五十嵐 哲 夫 1 コンパクトシティーについて

私が一般質問で取り上げた際、市長答弁ではコンパクトシティーは考えていないという答えがありました。昨年12月定例会伊藤議員の一般質問で、織田課長はコンパクトシティーを研究しているという答弁もありました。そこで以下の点について、市長の考えをお聞きします。

(1) コンパクトシティーについての現在の認識について伺います。

(2) 当市でどのようなコンパクトシティーを描いているのか、またはどのような案が出されているのか。どのような話し合いや研究が担当部局でされているのか。

2 防災（主に災害時要援護者避難支援プラン）について

災害時要援護者避難支援プランが示され、災害時市内におられる要援護者をスムーズに避難させるための体制づくり、実際に災害が起こったことを想定して検証をしていくことが大事だと考えます。

(1) 要援護者避難支援プランの基本的な考えをお聞かせください。

(2) 避難誘導・安否確認体制について各地区・自主防災組織との連携は取れているか（説明・理解はされているか。）。

(3) 自治会や自主防災組織、民生委員からは要援護者避難支援プラン、要援護者リストなどに関する意見・課題等は上げられたか。

(4) 要援護者が避難所に避難してからの対応について、どのように考えているか。

(5) ボランティアの受け入れマニュアルを策定中という答弁が以前にありましたが、その進捗状況・中身についてはどのようなものか。

3 英語教育について

昨年6月の第3回定例会一般質問で英語教育（コミュニケーション能力）についてを質問させていただきました。その後の取り組みについて聞かせて

いただきます。

(1) 一般質問で提案されたことを踏まえ、研究していきたいという答弁がありました。その後の各提案について取り組んだことは何か（オリジナルテキスト、ALTの活用、CD作成、会話の時間増など）。また、その成果は。

(2) これから新たに取り組むことはあるか。またその目的と明確な目標は。

4 特定健康診査・特定保健指導について

この4月から始まる特定健康診査・特定保健指導について行政の考えを伺います。現場サイドからはいろいろな課題があるという話を聞かせていただきました。私はそれらの中から主に特定健診の健診項目について行政の考えを伺います。

(1) 行政の基本的な考え・方針をお聞かせください。

(2) 健診項目について、行政の考えをお聞かせください。

大 滝 豊 1 耐震診断と耐震補強・耐震改修施策について

平成7年1月17日に起きた阪神淡路大震災では、死亡者の80%は家屋の倒壊による圧死や窒息死であったと言われております。家屋の倒壊は死者と負傷者の数を増加させました。さらに火災を誘発させ震災を拡大させました。ブロック塀等の倒壊は通路や道路をふさぎ、人命さえをも奪いました。

昭和43年の十勝沖地震及び、昭和53年の宮城沖地震の教訓を踏まえて、昭和56年に建築基準法が大改正されました。しかし昭和56年以前に建てた建物は一部を除いて耐震性は少なく、震度6以上で倒壊する可能性が高いと言われております。それに対応するためには、自分の家が地震に耐えられるかを調べ、弱い場合は強くするために家屋の状況に応じた耐震補強・改修が必要となります。加えて、役所や消防署等の「災害応急対策活動に必要な施設」や、小中学校等の「避難所及び災害対策活動を支援する施設」、保育所や危険物倉庫等の「人命及び物品の安全性の確保が特に必要な施設」及び、市営住宅等を含めた耐震診断や耐震改修計画策定が喫緊の課題と考えます。そこで市のお考えを伺います。

(1) 耐震診断について

木造住宅耐震診断支援事業の現状と課題について

小中学校校舎、体育館の耐震診断実施後の現状と課題について

(2) 耐震化についての現状と課題

木造住宅耐震改修促進計画について

小中学校校舎、体育館の耐震補強及び耐震改修促進計画について

田 原 実 1 糸魚川市民憲章の制定とその実践

新市の一体感の醸成と市民のこころのよりどころとして制定される市民憲

章について伺います。

- (1) 市民憲章制定の目的とその意味、及び期待される効果について
- (2) 市の木、市の花、市の鳥、市の石について
- (3) 新市の将来像「さわやかすこやか翠の交流都市」との関連について
- (4) 総合計画、その他計画、条例等との関連について
- (5) 市民憲章と市民の実践、地域・学校・職場・家庭への展開について
- (6) 糸魚川市民憲章等制定式典について

2 ジオパークによる経済効果と地域振興

現在糸魚川市が先頭に立ち取り組んでいる世界ジオパーク登録。その動きが市民から支持されるための大きな要因として、交流人口増大による経済効果と地域振興の見通しがついていることが掲げられます。以下、具体的に市長・行政の見解を伺います。

- (1) 産・官・学連携のジオパークビジネスモデル構築と国策について
- (2) 糸魚川市総合計画、糸魚川市都市計画マスタープランとの整合性について
- (3) 交流人口増大の見通しとその数値
- (4) 経済効果（投資と収益の見込み）とその数値
- (5) ジオパーク情報の受発信について
- (6) ジオパークへのスムーズな導入とアクセスの利便性の確保について
- (7) 観光業者のノウハウを生かしたコース設定とジオツーリズムの早期実施について

*農村体験合宿、早稲田大学合宿、トキめき新潟国体などをチャンスとして生かすために

- (8) 2年間取り組んだ健康づくり大学事業との連携
- (9) 大系線・中央線沿線のジオパーク候補地との連携
- (10) ジオパークガイド養成機関の設置について

3 医師不足等地域医療への行政対応

糸魚川地域の医療体制が崩壊しないように、医師会、病院・診療所、行政、市民が連携して医師不足に対応する必要性に迫られています。ますます深刻化する地域医療の危機的状況における市長・行政の対応と責任について伺います。

- (1) 臨床研修、県との連携について
- (2) 医師不足と特定健診・特定保健指導について

大 矢 弘 1 森林・林業施策について

(久保田 長門) 地球温暖化防止のための、森林整備に新たな交付金制度が創設され、主体的な森林の整備が促されています。

それに伴う事業の推進と、環境にやさしい安全・安心のまちづくりのため、

次の点について伺います。

- (1) 今後の間伐推進について
- (2) 県産材の利用促進について
- (3) バイオスタウン構想について
 - 構想の内容と策定するメリットについて
 - 現在までの取組状況について
 - 市としての構想計画は（特に木くず・林地残材）。

2 当面する教育関係の諸課題について

- (1) 学校週5日制について
 - 導入後の成果は。
 - 学校・家庭・地域との連携・協力体制は。
 - 「ゆとり」学習の評価は。
- (2) 新学習指導要領への移行に向けて
 - 授業時間数の増加の意義は。
 - 「ゆとり教育」路線転換への対応は。
 - 小学校高学年の外国語（英語）活動について
- (3) 学校給食における食材等の安全確保対策について
 - 食の安全性と対策は。
 - 地産地消食材の利用促進は。
 - 新給食センターの安全確保対策は。

野 本 信 行 1 平成20年度予算編成の基本方針と各種使用料金の見直しについて

- (1) 予算編成に当たり、市長は歳出15%カットを指示されたとのことですが、結果としてどのような評価をされているのかについて伺います。
 - 財政健全化法に基づく実質公債費比率等（3か年）の見直しについて
 - 市債残高の削減見直しについて
 - (2) 当市も大変厳しい財政事情の中で予算編成を余儀なくされておりますが、合併前の一市二町の事業水準と合併後の現在の受益者負担の見直しについて、今後の整合性と理解を得られる検討、事前の周知策について伺います。
 - 下水道使用料金の見直しについて
 - 公民館（集会場を含む。）などの使用料の見直しについて
- ## 2 ジオパーク整備事業の推進策について
- (1) 平成20年度予算で構想、基本計画策定、解説板作成、ガイドブック作成など行うとしておりますが、下記について伺います。
 - 策定、作成メンバーについて
 - 構想、基本計画策定は単年度で完成か。
 - その内容は世界ジオパークの基準を満たすものか。

- (2) 当市における地質遺産、観光資源など総合的な施策の推進により、地場産業の活性化を図る主旨は理解できるが、これまでの事業推進の経緯からして、安易な取り組みでは、認定が困難と考えるがどうか。
- (3) そのために、しっかりした運営組織と財政計画を持つことが必須条件と思うがどうか。

- 畑 野 久 一 1 (都)系魚川停車場線(ヒスイロード)のイメージアップ計画について
- (1) 平成26年の北陸新幹線系魚川駅開業に向け、取り組む考えの有無を伺いたい。
 - (2) 左右のアーケードが相当老朽化しているが、現況を伺いたい。
 - (3) 電線の地中化、駐車幅の確保、アーケードの雁木化等に取り組むべきと思うが伺いたい。
 - (4) 前記計画を「まちづくり交付金事業」として取り組む考えを伺いたい。
- 2 国の「農政改革3対策」の主な改善内容と評価について
- (1) 品目横断的経営安定対策の「面積要件」、「法人化」の改善した取扱いを伺いたい。
 - (2) 生産調整協力農家への主な改善内容を伺いたい。
 - (3) 農地・水・環境保全向上対策の「事務負担軽減」の主な内容を伺いたい。
 - (4) 今次改善策に対する市長の評価及び農業関係者の反応を伺いたい。
 - (5) 中山間地域等直接支払い制度の恒久化について伺いたい。
- 3 庁内組織・機構の改善強化と管理職の育成について
- (1) 現行組織・機構における課題を伺いたい。
 - (2) 北陸新幹線系魚川駅開業に向けた施策の企画・総合調整機能強化が必要と思うが考えを伺いたい。
 - (3) 県行政との密接な連携を深める必要性を感じるが伺いたい。
 - (4) 山積する行政課題に迅速かつ効果的に対応できる管理職の人材育成を急ぐべきと思うが伺いたい。
- 4 2月24日の高波被害について
- (1) 市内の被害状況と行政の対応状況を伺いたい。
 - (2) 当面の復旧対応方針を伺いたい。

- 松 田 昇 1 高齢化が進んでいる集落への取り組みについて
- (1) 高齢化が進んでいる集落については、65歳以上の人口が45%以上占める50地区を聞き取り調査していますが、現状分析などの進捗状況について伺います。
 - (2) これまでの調査や課題の把握でどのようなことが共通問題として浮き彫りになったか伺います。
 - (3) 高齢化が進んでいる集落へのこれからの施策や取り組みについて伺いま

す。

2 バス運行計画について

- (1) バス運行計画について検討中とのことですが、「住民生活に的を絞った計画策定」にする必要がないのか伺います。
- (2) バス事業に関する市民アンケートを行ったようですが、利用者ニーズ、特に交通弱者（交通不便者）が把握できたのかを伺います。
- (3) バス運行も含めて公共交通（病院バス・スクールバス・コミュニティーバス等）の現状の問題・課題について、どのように整理されたのか伺います。
- (4) 市民への周知も含めて、今後のスケジュールについて伺います。

3 旧姫川病院への対応について

- (1) 旧姫川病院に「医療機器補助金・病院増築補助金・地域医療対策補助・救急及び地域医療対策補助」として3億9,751万円が支払われているがその目的が果たされているか伺います。
- (2) 高齢の債権者から「債権のことを考えると眠れないので、毎晩睡眠薬を飲んでいる。灯油代が大変で、ストーブをつけるのを我慢している。通院費や介護費が大変だ。」などの声を聞いていますが、精神的・健康面での相談等の対応について伺います。
- (3) 旧姫川病院の跡地利用にどのように対応されているのか伺います。

4 生活習慣病予防を目的とした「特定健診・特定保健指導」について

- (1) 実施主体が国民健康保険や健康保険組合、政府管掌健康保険等の「医療保険者」に変わりますが、どのように連携した取り組みをされてきたのか。今後どのように連携された取り組みをされるのかを伺います。
- (2) 特定健診・特定保健指導が本年4月から始まりますが、医療保険者（国保）としての問題点や課題について伺います。
- (3) 特定健診に集団健診（健診日・時間を決める方式）と施設健診（健診日・時間を決めない方式）が考えられますが併用の考えはないのか。また県下の取り組みと状況について伺います。

伊藤文博 1 糸魚川市におけるユビキタス社会（「いつでも、どこでも、誰でも」ネットワークにつながる社会）の実現について

2010年ブロードバンドゼロ地域の解消、「いつでも、どこでも、誰でもネットワークにつながる（ユビキタス）情報化社会を目指す」という国のu-Japan政策に向けて、糸魚川市でも情報基盤整備について検討が重ねられています。

未だに方向性が確定できないのは、財政問題を始めとして、懸念材料があるからなのでしょう。しかし、方針決定のために最も大切な「どのような情報化地域を目指すのか」という点が具体的に明確にされていないために、結

論に至れないのが現状だと思います。

情報基盤整備の方法

コミュニティ放送の制作方法

配信の方法

に分けて、目指す情報化の姿を実現するための、それぞれの方法についての組合せを検討することが必要です。

そこで、次の点について市長の方針を伺います。

- (1) インターネットを使っての市民サービス内容
- (2) インターネットを使っての市外への情報発信
- (3) コミュニティ放送についての市長の方針と、コミュニティ放送の具体的内容
- (4) コミュニティ番組を含む、ネットワークを通じての市外への情報発信、広域連携
- (5) ケーブルテレビシステムと次世代ネットワーク（NGN）を使用している情報（放送）配信（受信）の違いについて、送り手側、受け手側の立場に立って明確に整理されていますか。
- (6) 情報通信基盤を使っての新しい行政サービスが、「糸魚川地域情報化整備計画書（案）」に挙げられていますが、次の点についての方針は。
行政サービス内容とセキュリティー問題
内容によって今後要求されるであろうICT（情報通信技術）の技術革新への追従性について
- (7) 事業推進によって市の財政への、将来的な負担を含めての影響

渡 辺 重 雄 1 市長の政治姿勢と公約の達成度、合併の評価について

米田市長は、前回の市長選で、市民・行政・企業が一体となったまちづくりの必要性を強調し、各分野の「つながり」をつくろうということで、6点の分野におけるつながりを掲げ、そのためには、新市の「市民力」を存分に発揮していくリーダーシップが求められていると訴えられました。

さらに、就任のあいさつでも、冒頭に「公約として市民の皆様にご訴えさせていただいたことは、あらゆる面でのつながりをつくるということでありまして、より強いつながりで結ぶことによって、活力のある元気な新市をつくるということでもあります。」と述べられました。

まもなく3年になりますが、合併とほぼ同時にスタートした米田市政の政治姿勢、公約はどのような形で反映されているのでしょうか。

特に、強調されていた「各分野におけるつながり」は、どのように市民の一体感に反映され、どの程度醸成されてきたとお考えでしょうか。

そして、期待と不安の中、様々な論議を経て合併した新糸魚川市の合併後3年の評価を市長自身はどのようにされているのでしょうか。

また、現段階で、この合併を市民がどのように受けとめ評価しているか、把握されているでしょうか。

さらに、今後期待される合併効果としてどのような形をお考えでしょうか。

ここで、市長の政治姿勢と公約の達成度、合併の評価についてお伺いいたします。

2 地域審議会の果たした役割と今後のあり方について

地域審議会は、合併により行政区域が拡大することによって住民と行政との距離が広がり、住民の意見が施策に反映されにくくなるということがないように合併特例法により設置されており、特に遠隔地の住民にとっては、その機能と役割に期待をしています。

新市の建設計画の実行あるいはその変更などについては、市長の諮問に依りて審議し、また、その他総合計画やまちづくりにかかわる諸事項などについては、市長に対して意見を述べるということからも、市政を左右する大変大きな役割を帯びていると考えています。

では、その役割を果たしていくために、前提となる審議会委員に対する行政の説明責任や情報の提供が図られ、会の機能が充分発揮できるような基盤整備がなされているでしょうか。

そして、情報を共有し、「生きた情報」で「生きた組織」により、「生きた審議」がなされているでしょうか。

実際に合併後3年の間にそれぞれの地域審議会では、どのような動きがあり、審議会本来の機能や役割がどのように果されているでしょうか。また、これをどう評価していますでしょうか。

さらに、今後のあり方についてどう展望していくのか、お伺いいたします。

古畑浩一 1 「天地人」PR事業について

2009年NHK大河ドラマ「天地人」は、火坂雅志氏の原作により、越後の英雄、上杉謙信亡き後の上杉家の存亡の危機を救った名臣・直江兼続を主人公として壮大なスケールの物語として話題を呼んでおります。

昨年の「風林火山」に続く、上杉謙信、越後新潟を舞台とする本作に、兼続ゆかりの地の期待も大きく、直江兼続の地元南魚沼市や長岡市、お館の乱の舞台となった上越市、悲運の武将、影虎終焉の地妙高市などはすでに観光PRを展開、来年度に向けて大きな予算付けを行っております。

また、新潟県としても度重なる災害による風評被害を脱するべく観光PRに力を入れる方針であります。もちろん、実行委員会まで結成し誘致に努めた会津、米沢地域もPRに力を入れることは必然であります。

わが糸魚川市においても、豊臣秀吉、石田三成、上杉景勝、直江兼続のピック4対面の場となった越後親不知落水城や上杉一門衆、山本寺定長の居城不動山城など天地人ゆかりの地、名場面の地も数多くあり、宣伝PRの場

として大いにアピールすべきと考えます。

そうした状況を踏まえ、以下についてお聞かせください。

- (1) 糸魚川における天地人ゆかりの地には、どのようなものがあるか。
- (2) 他市の取組状況はどのようなものか。
- (3) 「天地人」関連PRは考えているか。

2 情報化の推進とネット犯罪防止について

2010年。完全ブロードバンド化まで後2年。

近隣市町村が、具体的な情報基盤整備を進める中、いまだ明確な整備方針が決まらぬ糸魚川市の現状は、ゆゆしき事態であるといえます。

「誰のため、何のため」の情報基盤整備なのか。目的を明確に示すとともに、すでに整備されている能生CATV方式による一市一システムによる整備要望が強い中、行政としてはどのように方針決定をされるのかお聞かせ願いたい。

また、IT革命により飛躍的に情報システムが進化する反面、インターネットや携帯サイトによる問題が深刻化しております。

ネット詐欺や出会い系サイト、ネットいじめなど、行政としてはどのように対応されるのか。

また、携帯電話の普及率が高まり、かつ低年齢化していることから、犯罪抑止・ネットいじめ撲滅、モバゲー対応について情報リテラシーなど教育委員会ではどのような対応策を講じているかお聞かせください。

*モバゲータウン：携帯電話向けのゲームサイト兼ソーシャル・ネットワーキング・サービス。「モバゲー」あるいは「モバ」と呼ばれる。

猪 又 好 郎 1 後期高齢者医療制度について

- (1) 新制度が国民健康保険制度から分離させ、後期高齢者に適した医療サービスの充実と医療費の上昇をおさえるという、相反する目標にみえる、医療費上昇をおさえる施策はどのようなことか。
- (2) 4月に改定される「診療報酬」の内容に、75歳以上の外来診療に新しい報酬ができ、在宅療養をさらに進める項目が盛り込まれている。今後の後期高齢者の医療が在宅重視の方向に舵を切ったと考えるが、市長の考えはどうか。
- (3) 外来診療に対して、「後期高齢者診療料」が設けられ、これは主治医が診療計画をつくり、栄養や運動などの指導を行うことに対する報酬である。
「包括払い」といわれ月額6,000円で1か月内の検査や治療費は、すべてこの額になる。後期高齢者は望む治療を受けることができなくなると考えるがどうか。
- (4) 「後期高齢者終末期相談支援料」という報酬項目があるが、どのような制度か。

- (5) 保険料率を2年間固定するとしているが、県の均等割のことが、所得割7.15%のことが。2年後に見直すとしたら、何を基準値にするのか。
- (6) 扶養で保険料負担がなかった人が1,800人いるが、このうち新たな保険料の均等割が軽減される人は7割、5割、2割それぞれ何人か。
- (7) 40歳から74歳に特定健診、特定保健指導を保険者に義務づけているが、むしろ後期高齢者医療制度に義務づけるべきだと考えるがいかがか。
- (8) 老人保健医療制度で受けられていた各種健診を後期高齢者医療制度でも受診できるか。
- (9) 均等割と所得割を含めた新潟県の保険料は、全国で低い方から13番目となっているがその原因は何か。また、保険料の県内の比較で県平均の1人当たりの額より、当市の額が低いとその理由は何か。
- (10) 国民年金生活者が年収70万円の場合で、子の社会保険の被扶養者であるとき、均等割5割の軽減をするには、世帯主である子の所得は何万円以下でないと該当しないか。

高 澤 公 1 新幹線と並行在来線がもたらす影響について

JR北陸本線は新幹線工事着手後、あるいは開通後、JR経営から引き離し、第三セクター経営することになっています。

並行在来線を第三セクターで経営しているところは国内に数十か所ありますが、みな経営不振、赤字決算であります。

自治体が参加する第三セクター赤字補填の行き着くところは市民の税金であります。

新幹線誘致運動から始まって、新幹線建設費一部地元負担問題、国鉄分割民営化問題、並行在来線を第三セクター経営とする問題等、どれもがかなりのウエートで、関係市町村住民に係わってくる問題ですが、これら諸問題の内容や市民生活への影響は、主役である市民はほとんど知らされていません。

また、これら諸問題が法制定され実施に向けて動きだした時期は、日本の景気が上昇中で、まだ地方に活気があったころに決定されたことばかりです。

現在は当時とは社会情勢も変わり、何事においても地方に厳しい時代になっています。

この問題は今までのような感覚で、お上の意見や方針は、ご無理ごもっともですと言った姿勢では、将来に大きな禍根を残すことは火を見るより明らかかなことです。

思い切った政策転換が必要ではないかと考え以下の質問をします。

- (1) 平成3年に富山県入善町では、並行在来線はJRによる継続経営が望ましいとして、町民25,000人の署名をもって県に陳情しているが、入善町に比べ糸魚川市は住民に対しどのような形で情報を開示しているのか。
- (2) 「全国新幹線鉄道整備法」は昭和56年の27年前、細部決定は24年

前。

「国鉄分割民営化」ＪＲ発足は昭和62年の21年前。

国鉄民営化後「第三セクター化」への政府合意は平成2年の18年前。これらが決定する前に開業や着手した新幹線は地元負担や三セクのような制約はありません。

新幹線建設に伴う負担割合で今までいくら支出しているのか。

今年度予算に出てくる調査費等を含め、開業までに今後どのくらいの支出になるのか。

(3) 赤字部門の在来線は三セクにしても赤字経営となります。

ＪＲ西日本は北陸本線と大糸線等、7支線も一括経営分離する方針のようですが、そうすると糸魚川市の負担は増すばかりです。糸魚川市の将来負担はどの程度と想定しているのか。

また、新幹線ばかりでなく高速道路に付帯する施設も将来の負担が予想されます。人口が減少していく現状の中で、これらの負担を維持できるのか。

将来計画はどのように考えているのか。

(4) 現在盛んに叫ばれている、都市と地方の格差問題。

現在の新幹線政策では格差は広がるばかりです。また、その政策に添って計画を進めていくのは広がる格差をも認めて行くこととなります。

糸魚川市としてはどのように考えているのか。

+

保 坂 悟 1 ゼロ予算事業の推進について

(1) 現在取り組んでいる事業でゼロ予算的事业を抜粋し、一覧にまとめゼロ予算事業として位置づけ、新年度から市民に紹介すべきと思うのがいかがか。

(2) 今後、職員と市民からゼロ予算事業の提案を受ける窓口の設置と、素晴らしい提案には年1回表彰をして協働の意識を高めることが必要と思うのがいかがか。

(3) ゼロ予算事業推進のためには、市の財政状況と近い将来の市のイメージを市民にわかりやすく示し、認識と理解を求める活動を強化すべきと思うのがいかがか。

2 育児と介護の緊急サポート制度の創設について

(1) 多産児世帯や年子の世帯で世話をする人が、けがや病気になった場合、または産前・産後の体調不良などにより緊急支援を必要とする場合があります。ヘルパー派遣事業を行う必要があると思いますが、現状と今後の対応についてお聞きします。

(2) 居宅介護世帯で介護をしている方が、けがや病気になった場合、また身近な方が亡くなり葬儀がある場合に介護が必要な方を緊急かつ一時的に預けられる施設が必要だと思います。そこで現状と今後の対応についてお聞き

します。

3 木質ペレットストーブの設置について

昨年9月議会で、学校や公民館にペレットストーブの導入を提案しましたが、今回は学校や公民館にこだわらずに、原油高騰の状況を踏まえ、自然環境に配慮したエネルギーのあり方や木が豊富な地域性から森林の保全と有効活用のシンボルとして、ペレットストーブを本庁等の施設に設置し、燃料について市民に考えていただきたいと思うがいかがが。

4 学校教育について

- (1) 各学校にA E Dが配置されております。児童生徒に対してA E Dの講習をし、命の大切さや機械の正しい使い方を学ぶ機会を提供すべきと思うがいかがが。
- (2) 子どもたちにとってあまり目にしないオストメイトのマークやマタニティマークなど全国共通に使われているものの紹介を通し、人や自然に対する思いやりや常識を身につける講演講習をすべきと思うがいかがが。

倉 又 稔 1 乳幼児及び生徒の総合的施策について

(1) 出生から義務教育終了まで一貫した事務処理について

子の出生から義務教育終了に至るまで、市が関係する行政事務は多種多様にわたり、その取扱事務により、所管がそれぞれ異なっています。

これは国の組織体系による縦割り行政に起因するものと思われませんが、市民にとっては非常にわかりにくいだけでなく、一つの事務処理や相談でありながら、一つの担当課だけで目的を達することができず、市民は不便を強いられています。

そこで、妊娠から義務教育終了に至るまで発達段階に応じ、一貫した事務処理ができるよう、例えば「こども課」を設置するなど、組織機構を見直す必要があるのではないかと考えます。

市の考えをお聞かせ下さい。

(2) 保育所の民間委託と統廃合について

保育所への入所方法が、従来の行政処分としての措置から、児童福祉法が改正され、保護者が希望する保育所を選択できるようになって10年が経過しましたが、都市部と違い、本市においては従来どおりの入所が大勢を占め、制度そのものが活用されていません。

これは、本市の特に公立保育所において、利用者の要望に即した多様な保育サービスの提供が画一的で、競争の原理が働いていないためと思われます。

そこで、行財政改革と保育所運営の活性化を促すため、市立保育所の民間委託を検討するとともに、少子化に伴い、入所児童が年々減少している現状を見据えて、民営保育所を含め、統廃合の検討をする時期と思います。

市の考えをお聞かせ下さい。

(3) 過渡期教育の連携等について

厚生労働省は、保育所の指導要領である「保育所保育指針」を2009年をめどに改定する方針を決めました。

その中の、主に検討する内容の中には、「小学校との連携を強化すること。」が含まれており、少子化により、家庭においても、社会においても年齢を超えた交流の機会がなくなったことによる弊害を是正する目的をもっているものと思われます。

これは、昨年12月に策定された糸魚川市総合計画実施計画の中の、就学前教育・学校教育の充実として、「幼・保・小・中学校の連携の推進」に相通ずるものと思われますが、具体的取り組みを伺います。

中 村 実 1 さんさん子育て・縁結びハッピーコーディネートの現況

少子化の進む中、地域と行政が一体となり少子化問題に取り組んでいると思うが、なかなか成果が見えてこないのが現状であります。

行政では昨年に引き続き、本年も人口減少対策検討チームを立ち上げ、新たな事業計画とともに「さんさん子育てサポート事業」、「縁結びハッピーコーディネート事業」も昨年に引き続き実施されると伺っています。

そこで次の3点について伺います。

- (1) 「さんさん子育てサポート事業」の協賛店数とカード発行枚数とアンケート結果は。
- (2) 「縁結びハッピーコーディネート事業」のコーディネーター数と実績と今後の課題は。
- (3) 新規事業の内容と今後の進め方。

2 高波対策について

近年暖冬の影響か、45キロの海岸を持つ我が糸魚川市内の数か所で、ここ数年高波による越波被害が何度も繰り返し起きている。国・県はもとより、糸魚川市でも調査検討を行い、様々な対策を行ってきたと思うが、2月24日に低気圧の急な発達に伴い国道8号が早川橋から鬼伏までの区間が全面交通止めになったり、民家や車庫の損壊、マリンドリーム能生のレストランのガラスが割れるなどの被害も出た。このような高波を防ぐ有効な対策の一つとして、離岸堤が考えられるが前回の災害を教訓に国や県とどのような話し合いが行われ、どのような対策を行ってきたのか。また今回の被害を受け、今後どのような対策を行っていくのか伺います。

3 糸魚川市「新火葬場建設」について

糸魚川市には現在2つの火葬場があり、1つは旧糸魚川市の築38年の火葬場と、もう1つは旧能生町の築29年の火葬場であります。

糸魚川火葬場は築38年と老朽化が進み、機能不足と高齢化による火葬件

数の増加に伴い、20年度「基本計画」、21年度から24年度にかけて「実施設計・用地取得・建設工事」の整備方針を定め、工事が進められていくことになりました。その後新火葬場供用開始の後には、いずれ能生火葬場を取り壊し、1つにまとめる方向の話聞いていますが、そこで次の2点を伺います。

- (1) 現火葬場と新火葬場の機能等の大きな相違点は何か。
- (2) 能生火葬場の取壊しはいつ頃を考えているか。

新 保 峰 孝 1 後期高齢者医療制度と特定健診・特定保健指導について

- (1) 4月から後期高齢者医療制度が実施されようとしているが、それと同時に健診・保健指導のあり方が変わろうとしている。その概要と上越3市の取り組みの状況はどうか。
- (2) これまで総合的な健診で市民の健康を守ってきたが、メタボリック症候群に焦点をあてた特定健診で、これまでのような健康支援ができるのか。糖尿病、高血圧症、高脂血症の方を除くとなっているが、これらも含め大きな後退ではないか。
- (3) 姫川病院閉院にともなう地域医療体制への影響が続いているが、特定健診における病院、診療所の役割と対応力、市民の利便性への影響をどのように考えているか。また、集団健診を行わない理由は何か。
- (4) 病院、診療所等と協力しあって市独自の基本健診を継続し、市民に対する健康支援を行うべきではないか。
- (5) 後期高齢者医療制度では、資格証明書の発行がおこなわれることになるが、その影響をどのように考えているか。低所得者に対する保険料、一部負担金の助成を考えるべきではないか。

2 生活排水処理について

- (1) 下水道の整備状況と今後の計画はどうか。
- (2) これまでに整備した公共下水道、集落排水、合併処理浄化槽の各事業費総額及び内訳(補助金、市負担、市民負担)。起債残高と市負担分。今後の事業費とその内市負担分、市民負担はどうか。
- (3) 公共下水道、集落排水、合併処理浄化槽の各維持管理費、処理場管理費と使用料収入はどうか。今後、伸びが見込める使用料収入はどれほどか。
- (4) 基準外の繰り出しが年々増加の傾向にあるとのことだが、公共下水道の建設や維持管理に経費がかかり過ぎるのではないか。
- (5) 当市内を流れる主要河川の水質は、一部を除きヤマメ、イワナ、アユ等が生息できる水準を維持しているところが多い。処理後の排水について、どのような考え方で対処しているか。
- (6) 合併処理浄化槽の機種ごとの性能はどうか。最低限「糸魚川浄化センターの環境保全に関する協定」に記されている数値を下回らない機種を選定

すべきと思うかどうか。

(7) 地域の水循環を考えた場合、炭等の活用による排水口の水質浄化と川での水草や藻による浄化、夏場における水量の確保を、併せて行っていく必要があるのではないか。

3 姫川病院への補助金等について

(1) 医療水準の維持、継続及び地域医療確保のため、また地域医療、救急医療体制を維持確保するためとして姫川病院への特別支援が行われ、市の補助金交付要綱にもとづき医療機器の購入にも補助されているが、それらの医療機器はどうなっているか。

(2) 市税の納付状況についてはどのように考えているか。

4 オンブズパーソン制度について

市政に関する苦情を公正・中立な立場で処理し、市民に代わって業務内容の是正や勧告、意見表明を行うオンブズパーソン制度を検討できないか。

鈴木 勢子 1 総合健診の取り止めと後期高齢者医療制度について

国の医療改革として4月から始まる後期高齢者医療制度は、「現役世代と高齢世代の負担を明確化し、公平で分かりやすい制度にする」と言われているが、調査するほど不明確で分かりにくい内容と捉えております。そこで次の点についておたずねします。

(1) 後期高齢者医療制度についての説明会を、老人クラブなどで行っているが、市民対象者に十分に周知され理解されているのか。説明会に参加できない対象者へは今後、どのようにするのか。

(2) 75歳以上の特定健診は、「かかりつけ医療機関」での実施は可能となっているのか。また、交通手段は確保されていくのか。

(3) この制度と連動している特定健診・特定保健指導で、40歳以上74歳以下の対象者の施設健診の受け入れに問題はないのか。また上越地域健康管理センターでの受診も含めて送迎体制はいかがか。

また、広報「国保だより」でも掲載されているが、対象者には分かりにくく理解に苦しむようである。3月号の本紙特集で周知できるのか。

(4) これまで各地域での総合健診は一定の成果を上げてきたが、今後これに代わる市独自の総合的な健診方法を模索し、健康づくりの推進を図るべきではないか。

2 市HPと広報紙の有料広告掲載について

4月から市HPと広報紙での有料広告を、市内事業所や営業所を対象に募集を始めていますが、次の点についておたずねいたします。

(1) 大きな目的と、その収益はいかがか。なぜ今の時期の導入なのか。

(2) 市HPや広報紙で市民が“より見やすい・分かりやすい”紙面をめざすなら、有料広告の占める紙面スペースにより弊害が生じてこないのか。ま

た、今後の課題となるものは何か。

(3) 能生ケーブルテレビでの有料広告の実績はいかがか。

3 地域格差のない子育て支援と少子化対策について

12月定例会で、子育て支援と少子化対策についての「一般質問」を行いました。その後の状況をおたずねいたします。

(1) 「平成18年度次世代育成支援行動計画」がHPでも公表されましたが、主要事業及び目標の進捗状況を見ると、能生・糸魚川・青海地域における支援格差が生じております。多少の差は地域の独自性としても今後、市として合併後の一体感を主張していく中で、どのように是正していくのか。

(2) 「いといがわ男女共同参画プラン」が12月に策定されたが、基本計画で示された重点項目の【仕事・家庭・社会活動が共立できる仕組み】を、第1次行動計画年度（平成19～23年度）でどのように具体的に実施していくのか。

(3) 児童館の位置づけについて、12月定例会の答弁では「能生児童館と同様の機能を、形は違うが糸魚川・青海でも担っている」という市の認識が示されているが、現場で行っている状況の違いをしっかりと把握しているのか。

(4) 少子化対策について、妊娠中・乳幼児期・保育園・就学前・通学児童らの成長段階でのきめ細かな施策が求められている今日、国の動向や先進地での取り組み、また市民ニーズを把握しているのか。

4 糸魚川市民憲章等制定式典と合わせた平和都市宣言の実施を

合併3周年の記念事業として、来る3月20日に糸魚川市民憲章等制定式典が計画されております。そこで次の点についておたずねいたします。

(1) 当日に「スポーツ都市宣言」と「健康都市宣言」が予定されているが、昨年6月の「平和都市宣言」も合わせて行うべきではないのか。

(2) 実施できないとすればその理由は何か。

(3) 前記二つの都市宣言モニュメントと比較し「平和都市宣言」の宣伝塔は高さも低く目立たず、市民への周知にも問題がある。また冬季間は、除雪された雪に隠れている現状をどのように捉えているのか。今後の対策はいかがか。

